

令和6年度 中高教職課程履修の手引き

教職課程とは、教育職員免許法に基づき教育職員免許状（以下「教員免許状」）を取得するための課程です。

教員免許状を取得するためには、この課程で所定の単位を修得し、都道府県教育委員会に免許状授与申請をしなければなりません（本学の場合、その年度の卒業見込・免許状取得見込者全員、兵庫県教育委員会に大学で取りまとめて免許状授与の一括申請を行う）。

免許状取得までの4年間のスケジュール概略は、『Student Guide-For Academic Studies』（以下『SG』）の「資格取得について」▶「1.中学校教諭・高等学校教諭」に掲載していますので、ご覧ください。

また、実際に教員として働くためには、下記のとおり採用選考試験に合格する必要があります。（教員採用選考試験受験・合否結果・最終的な進路については、学校教育センターに報告のこと）

公立学校教員の場合（各自治体ごとに採用選考試験を実施）：1次試験 6～7月・2次試験 8月の自治体が多い

正規採用： **教員採用選考試験受験** ⇒ **合格** ⇒ **採用・配属決定**

臨時採用： **講師登録** ⇒ **常勤講師採用**（仕事内容は正規とほぼ同じ）
非常勤講師採用（担当する時間のみ勤務）

※採用選考試験に合格できなかった場合、講師登録をして次年度に常勤講師（または非常勤講師）をしながら、再受験し合格する人も多い。1次試験合格で2次試験不合格の場合、次年度の1次試験が免除される自治体もある

私立学校教員の場合（独自の 방법으로採用選考試験を実施）

私学教員適正検査で採用する学校

適正検査受験者が名簿に登録され、採用を希望する学校が、その名簿を参考に受験者に直接連絡を取り、面接などを行って決定する。

求人票による公募で採用する学校

各学校独自で採用選考試験を実施して決定する。

I 教職課程

教職は日々成長発達する幼児・児童・生徒を教え導く専門職です。単なる学問的成果の修得だけでなく、指導力を高めるための専門的な知識や技術も必要です。そのため、文部科学省は教員養成のための特別な課程を定め、厳格に適用することを求めています。教職課程には講義、演習、実験や実技とともに、教育実習の履修、教職課程履修カルテの作成、介護等体験（下の項目（1）（2）（3））が必須条件として定められています。

また、教育実習や教員採用選考試験受験の時、就職後、学校・園でのボランティア活動の経験が役に立ちます。教職課程を履修する学生は、授業の空き時間を上手に利用して、ぜひボランティアもしてください。

なお、教職課程の履修を辞退する場合には、手続きが必要です。すぐに学校教育センターまで申し出てください。科目の履修をやめるだけでは、教職課程履修を辞退したことにはなりません。

(1) 教育実習

教育実習は、4年次前期または後期に3～4週間連続で実施します（新健は3年次）。

教育実習の期間中は教育実習に専念しなければならず、実習期間中に就職活動で欠勤するなどということはできません。教職課程を履修し、教員免許状を取得するということは、教員採用選考試験を受験し、教員になるということが前提になっていることを理解しなければなりません。教育実習の受入に教採受験を条件にしている市町村や学校もあります。

実習前年度の3年次4月に実習先への依頼の詳細をClassroomで説明します（新健は2年次）。

なお、教育実習には履修要件（実習前年度末までに修得しておかなければならない単位。『履修便覧』参照）があり、単位不足の場合は実習に行くことができなくなり、卒業時に免許状が取得できなくなりますので、履修要件を充足できるように注意してください。

(2) 教職課程履修カルテ

教職課程を履修している間、課題を明確にし、各自学習していくために履修カルテを作成していきます。作成についての詳細は[こちら](#)。

(3) 介護等体験

小学校・中学校の教員免許取得には、介護等体験（特別支援学校で2日間＋社会福祉施設で5日間）が義務づけられています。小学校・中学校課程履修者はClassroomに招待するので参加すること。

II 教職課程履修に関する注意事項

- ① 中高教職課程の申込みをした学生は、教職課程履修者となります。後期以降に開講する教職科目については、教職課程履修者でなければ受講できません（新健はその限りではない）。教職課程履修には、『履修便覧』の「免許・資格」（新健の教科及び教科の指導法に関する科目・教育の基礎的理解に関する科目等、健マネの教科の指導法は、学科ページに記載）、『SG』の「資格取得について」を確認して、自分自身で履修計画を立てることが必要です。
- ② 出席必須のガイダンス等に無断欠席することのないよう注意してください。（授業と重複した場合は授業優先。学校教育センターまで事前に申し出ること）
- ③ 連絡は掲示（またはinfo@MUSES、Classroom）によって行うので、定期的を確認してください。また、学校教育センターからの電話着信(0798-31-0243/0297)があれば、折り返し連絡、または来室してください。
- ④ 卒業要件に係わる必修・選択の区分と教職課程における必修・選択の区分は異なりますので、卒業必修はもちろんですが、教職のための必修がきちんと履修できるように気をつけてください。教職課程の科目は1年次前期から始まっています。留学などで履修できなかった科目は、次年度以降に修得してください。
- ⑤ 登録ミス、受験不可や試験での不合格等による再履修は、次年度に下級学年で開講される科目を履修することになります。その場合、自分の学年に必要な科目との時間割重複も予想されるため、卒業までに資格取得に必要な単位を修得できない場合があります。
- ⑥ 卒業までに所定の単位を取れなかった場合は、不足分を卒業してから通信教育（本学では実施していない）や科目等履修で充足すれば教員免許状を取得することができます。ただし、教育職員免許法等の改正により、在学中に不足した単位だけでなく新たに必要科目が加わる可能性もあります。
- ⑦ 2年生になってから手続きして教職課程を履修する学生は、卒業までに必要な単位を修得できないこともあります。2年生以上で新規に教職課程履修を考えている人は、課程履修申込手続きを早めに完了させ、前期の2年次開講科目も漏れなく履修しましょう。
- ⑧ 他の資格（博物館学芸員・図書館司書など）の取得を希望する場合は、時間割重複により卒業までに必要な単位を修得できないこともあります。また英語チャレンジコースとの併修は難しいです。何の資格を一番に希望するかを、よく考えた上で、履修してください。
- ⑨ 教職課程（履修や就職）のことでわからないことは、各学科の学校教育センター委員の先生に相談しましょう。研究室の場所やオフィスアワー、連絡先などは、MUSES内のリンク『オフィスアワー』に掲載されています。また、学校教育センターまで気軽に聞きに来てください。（平日8:50～17:00、土曜8:50～11:15・12:15～13:05 学校教育館1階。別途「教員・保育士になろう！」p.4の地図を参照のこと）

【学校教育センター委員の各学科先生方】

学科	学校教育センター委員
日本語日本文学科	林 貴哉 先生
歴史文化学科	松山 薫 先生
英語グローバル学科	山根 明敏 先生
健康・スポーツ科学学科	満武 華代 先生
スポーツマネジメント学科	豊永 洵子 先生

学科	学校教育センター委員
生活環境学科	佐々 尚美 先生
社会情報学科	榎並 直子 先生
演奏学科／応用音楽学科	多田 秀子 先生
健康生命薬科学学科	村田 成範 先生

大学では履修計画の立案・履修登録は学生の責任において行われます。重大な履修ミスのないよう注意しましょう。また、開講された科目は、着実に履修登録し単位を修得するように努力しましょう。

Ⅲ 他校種他教科の教員免許

教職課程履修者は、他学科で開講している科目を履修する「特別聴講制度」を利用して、自分の学科で取得できる免許以外（他校種他教科）の教員免許取得を目指すことができます。

これは、他の学科で開講している免許状に必要な科目を聴講して必要単位を修得し、小学校 2 種免許状もしくは中学校の別教科の 2 種免許状（情報は高校家庭 1 種免許状）の取得を目指すものです。

ただし、この聴講は個人の努力によって単位を修得するものであり、卒業するまでに大学が免許取得に必要な単位の修得を保障するものではありません。この特別聴講制度を利用するには、今回、教職課程履修の手続きを完了し、12 月に info@MUSES で案内する「他校種・他教科の教員免許取得に関する履修説明」での手続きが必要です。手続後は 2 年次から必要科目の履修が始まります（科目の履修に対して別途、聴講料が必要）。

Ⅳ 教員就職

中学校・高等学校の教員就職は、今後、少子化により減少の方向にあります。教員採用選考試験は容易な水準ではなく、十分な準備が必要です。本学では教員就職の支援・対策として、2・3 年次 7 月から「教員採用選考試験特別講座（特講）」を開講します。1 年次から受講できる講座もありますので、早めから積極的に受講し教員就職のための学習を心がけましょう。詳細は、掲示および Classroom「公立教員・保育士就職 2024」(3kzbvd6)で確認してください。

〔参考〕最新の教員採用選考試験の合格者数等は、学校教育センターHP『最新 教員・保育士教採合格者数/就職者数』に掲載

Ⅴ ガイダンス等のスケジュール確認

掲示板（学校教育センター前・L2 号館前・薬学部掲示板）で、年間スケジュール（毎月末更新）を確認しましょう。大学の HP 学校教育センター「教員・保育士になるために」のページ内でも、年間スケジュールを掲載しています（<http://www.mukogawa-u.ac.jp/~shikaku/aim/schedule.html>）。お気に入り登録しておいてください。なお、とくに個別の連絡はメール（@mwu.jp）や Classroom ですることが多いです。定期的に確認しましょう。

学校教育センター主催のガイダンス・資料公開の年間スケジュールの見方は次のとおりです。Classroom での連絡などと併せて活用し、もれなく必要なガイダンス等に出席してください。

中教免取得希望者は、「介護等体験」も見ること。小2種免取得希望者(他学科聴講)は「小学校」も見ること					
種別	ガイダンス・説明会名/公開資料名	開催の形態・日時/公開場所	時期	対象	出席必須 手続必須 回答必須
中高	中高教職課程履修の手引き	学校教育センターHP「教職課程履修の開始」に掲載	4/1～	大学 教職課程新規履修希望者	手続必須
中高	「履修カルテ」説明資料	学校教育センターHP「課程履修の申込み」→「課程履修の手引き」からリンク	4月上旬	大学・(新教除く) 教職課程新規履修	自分が対象かどうか確認
中高	令和7年度(来年度) 中高教育実習依頼の手引き	Classroom「R7年度中高教育実習」内に掲載	4月中旬	大学3(新教3含む)・新健2の中高教職課程履修者で来年度実習予定者	回答必須
中高	令和6年度中高教育実習 事前ガイダンス	対面:4月24日(水)5限 L2-11		兵庫県での令和6年度実習予定者	出席必須
中高	令和6年度中高教育実習 事前ガイダンス	対面:4月25日(木)5限 L2-11		兵庫県以外での令和6年度実習予定者	出席必須

中高課程履修者は、「中高」「介護等体験」をとくにチェック。その他、各自、自分に関係のある種別の行の確認を忘れずに！

出席対象の学科・学年・クラスでなくても、同一ガイダンス等であれば、別の日に出席しても構いません

出席対象の学科・学年・クラスでなくても、同一ガイダンス・説明会であれば、別の日に出席しても構いません

なお、出席必須のガイダンス等の欠席については以下の表のように取り扱います。

対面およびオンラインの出席必須のガイダンス等の欠席についての対応

- ◆原則として、「事前連絡なし」の欠席は認めない。（事前連絡は説明会等の最終回開始時刻まで）
- ◆事前連絡による欠席は、許可理由（下記一覧参照）のみ認める。

認定欠席理由 (事前連絡があった場合のみ許可)		必要な提出物(データでの提出可) (提出物の提出期限は、事後1週間まで)
1	授業・補講・試験等との重複 (授業・補講・試験等への出席が優先)	なし(学校教育センターが確認)
2	忌引き(二親等以内)	会葬御礼等
3	病気(本学承認の感染症)	診断書
4	丹嶺学苑研修センター研修	なし(学校教育センターが確認)
5	音楽学部定期演奏会 ★	
6	アメリカ分校ビザ申請	ビザ申請日付がわかる証明
7	交通事情・気象警報 (科目担当者に届け出る授業の欠席理由と同じ)	遅延証明または新聞切り抜き
8	本学の院・専攻科入試、編入等試験 (短大は他大学の編入学試験を含む)	短大他大学編入は日付のわかる受験票 他はなし(学校教育センターが確認)
9	出身校の進路説明会 ★	
10	裁判員制度	呼出状のコピー
11	学生・学生父母死亡による代表学生参列★	
12	学友会(公認団体)活動 (科目担当者に届け出る授業の欠席理由と同じ) ★	
13	教員・保育士就職活動(卒業学年のみ)	日付のわかる受験票または受験先の証明書
14	学外実習・介護等体験(事前打合せ含む) ★	

★:学校教育センターから他部署へ確認

提出物や手続きも事前連絡なしの遅延は認めません。

免許取得の要件（教職課程の履修のしかた）

卒業するまでに下のとおり、必要単位を充足すること。

【自分の『履修便覧』で必ず確認すること。「免許・資格」ページに掲載。新健の「教科及び教科の指導法に関する科目」「教育の基礎的理解に関する科目等」「大学が独自に設定する科目」、健マネの「教科の指導法」は学科ページに掲載】

免許状の種類	基礎資格	教員免許状取得に必要な法定単位数						
		日本国憲法	体育	外国語コミュニケーション	教職基礎科目	教科及び教科の指導法に関する科目	教育の基礎的理解に関する科目等	大学が独自に設定する科目
中学校一種免許状	本学卒業の要件を満たすこと	2	2	2	2	28	27	4
高等学校一種免許状	本学卒業の要件を満たすこと	2	2	2	2	24	23	12

「大学が独自に設定する科目」の単位は、法定単位数を超えて修得した「教科及び教科の指導法に関する科目」αと、法定単位数を超えて修得した「教育の基礎的理解に関する科目等」βと、「大学が独自に設定する科目」の本学開設科目γの合計になります。【下記参照】

「教科及び教科の指導法に関する科目」=(28+α)単位取得
「教育の基礎的理解に関する科目等」=(27+β)単位取得
「大学が独自に設定する科目」=(α+β)=最低4単位

「教科及び教科の指導法に関する科目」=(24+α)単位取得
「教育の基礎的理解に関する科目等」=23+β)単位取得
「大学が独自に設定する科目」=(α+β+γ)=最低12単位

教職基礎科目

日本国憲法
■教職基礎科目（1年次前期開講）

科目名	単位
日本国憲法	2

卒業に必要な単位数に含まれる(上限20単位)科目のひとつ。

体育
＜講義科目＞の中から2単位以上と、＜実技科目＞の中から1単位以上の合計3単位以上修得すること。

■共通教育科目
＜講義科目＞

健康・スポーツ科目群(健康・スポーツ科学科目)

科目名	単位
スポーツと栄養	2
障がい者とパラスポーツ	2

■基礎教育科目・専門教育科目
＜講義科目＞

健康・スポーツ科学科、スポーツマネジメント学科

開講区分	科目名	単位
基礎教育科目	健康・スポーツ科学論	2
専門教育科目	*スポーツの文化・歴史	2

＜実技科目＞
健康・スポーツ科目群(スポーツ実技科目)

科目名	単位
スポーツ実技(テニス)	1
スポーツ実技(ゴルフ)	1

＜実技科目＞
健康・スポーツ科学科、スポーツマネジメント学科

開講区分	科目名	単位
専門教育科目	*体操	1
専門教育科目	*器械体操	1

「教職基礎科目」のうち、「共通教育科目」に関しては、MUSES<時間割参照>で確認のこと。
「基礎教育科目」「専門教育科目」に関しては、『履修便覧』の各学科ページで開講期を確認すること

外国語コミュニケーション

■共通教育科目
言語・情報科目群(言語リテラシー科目)

科目名	単位
英語コミュニケーションⅠ	2
英語コミュニケーションⅡ	2

■基礎教育科目・専門教育科目
日本語日本文学科

開講区分	科目名	単位
基礎教育科目	Oral Communication	2
専門教育科目	海外文化体験演習	4
歴史文化学科		

数理、データ活用及び人工知能に関する科目又は情報機器の操作

■共通教育科目
言語・情報科目群(情報リテラシー科目)

科目名	単位
データリテラシー・AIの基礎	2

「教科及び教科の指導法に関する科目」のうち「教科に関する専門的事項」は各学科の基礎・専門教育科目に置かれているが、「教科の指導法」○○科指導法Ⅰ～Ⅳは教職課程科目。本学では、中高ともⅠ～Ⅳ(各2単位)すべて必修。

教育の基礎的理解に関する科目等

※以下の履修便覧抜粋表では科目番号欄を省略しています

免許法施行規則に定める科目	修法定最低単位数	本学の開設授業科目	単位数	中一修単位	中高修単位	(開講期)	
						前期	後期
第三欄 教育の基礎的理解に関する科目	10	教育原理 教育史 教職入門 教育行政学 教育心理学 発達心理学	2 2 2 2 2 2	2 2 2 2 2 2	2 2 2 2 2 2	○ ○ ○ ○ ○ ○	

記載された必修単位を修得し、必要な法定最低修得単位数を充足すること

「中一修単位」「高一修単位」欄に記載されている数字は必修単位数。この単位を充足させた上、さらに「法定最低修得単位」欄に記載された単位数を充足しなければならない。必修単位欄に単位数が記載されていない科目は選択科目

免許法施行規則に定める科目	修法定最低単位数	本学の開設授業科目	単位数	中一修単位	中高修単位	(開講期)	
						前期	後期
第四欄 道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目	中10・高8	道徳教育指導論 総合的な学習の時間と特別活動 教育方法の理論と実践 ICT活用の理論と実践 生徒指導・進路指導 教育相談の理論と方法	2 2 1 1 2 2	2 2 1 1 2 2	— 2 1 1 2 2		
第五欄 教育実践に関する科目	中5・高3	教育実習 教育実践演習	1 2	1 2	1 2		
合計	中27 高23	計	34	30	26		

「教育実習Ⅰ(中高)・Ⅱ(中高)」は、学外実習科目。中学校または高等学校で、3週間～4週間の教育実習を行うことで、「教育実習Ⅰ(中高)・Ⅱ(中高)」の単位を修得したことになる。(情報のみの免許取得の場合は、高校で2週間の教育実習となり、「教育実習Ⅱ(中高)」の単位のみの修得することになる)

教育実習に行くには、実習前年度末までに所定の科目の単位を修得し、所属する学科の定める要件を満たしていなければならない。詳細は、自分の『履修便覧』で必ず確認すること

教科及び教科の指導法に関する科目

大学が独自に設定する科目

記載された必要単位を充足するように単位を修得し、必要な法定単位数を充足すること。各「必修科目」欄は必修単位数

【例】国語科(日本語日本文学科)

免許法施行規則に規定する科目・単位数	本学開設科目		
	中学校	高等学校	単位数
国語学(音声言語…を含む。)	国語学(音声言語…を含む。)	1以上	1
国文学(国文学史を含む。)	国文学(国文学史を含む。)	1以上	2
漢文学	漢文学	1以上	2
書道(書写を中心とする。)		中のみ1以上	2
各教科の指導法(情報機器及び教材の活用を含む。)		中8以上高4以上	2
計		中28以上高24以上	66

免許法施行規則に規定する科目	法定修得最低単位数	算入可能な単位	備考
大学が独自に設定する科目	4	①28単位を超えて修得した「教科及び教科の指導法に関する科目」 ②27単位を超えて修得した「教育の基礎的理解に関する科目等」	①②の中から、合計4単位以上修得すること

免許法施行規則に規定する科目	法定修得最低単位数	算入可能な単位	備考
大学が独自に設定する科目	12	①24単位を超えて修得した「教科及び教科の指導法に関する科目」 ②23単位を超えて修得した「教育の基礎的理解に関する科目等」 ③次にあげる本学の開設授業科目 ・道徳教育指導論(2単位)	①②③の中から、合計12単位以上修得すること

「高等学校」欄の斜線・「高一修単位」欄のグレー塗りつぶしは、高等学校免許取得に必要な単位(「教科及び教科の指導法に関する科目」「教育の基礎的理解に関する科目等」「大学が独自に設定する科目」)には、算入できないことを示す。国語・理科の教科では、このように免許法施行規則に定める区分が中学校と高等学校で違っているので、要注意!

「教育実習Ⅰ(中高)・Ⅱ(中高)」「教育実習事前事後指導(中高)」「教職実践演習(中高)」履修要件

教育実習に行くには、実習前年度末までに所定の科目の単位を修得し、所属する学科の定める要件を満たしていなければなりません。

次の表は、表の見方を説明するものです。履修要件の詳細は、自分の『履修便覧』で必ず確認してください

『履修便覧』『免許・資格』ページに掲載(健康・スポーツ科学科以外)

健康・スポーツ科学科は、『履修便覧』学科ページの「2 教育の基礎的理解に関する科目等」に掲載

「教育実習Ⅰ(中高)」「教育実習Ⅱ(中高)」「教育実習事前事後指導(中高)」「教職実践演習(中高)」履修のための最低修得単位数							
学部	学科	免許 教科	各学科に開講する基礎・専門教育科目		教育の基礎的理解に関する科目等、各教科の指導法 以下の授業科目を含むこと	その他の要件	備考
			70単位以上	20単位以上			
文学部	日本語 日本文学科	国語	70単位以上	20単位以上	20単位以上		その他の要件が記載。不明の場合は、詳細は各学科の学校教育センター委員に問い合わせのこと
					教育実習事前指導(中高)		
					国語科指導法Ⅰ 国語科指導法Ⅱ 国語科指導法Ⅲ or Ⅳ		
	歴史文化学科	社会 地歴	70単位以上	20単位以上	20単位以上		
					教育実習事前指導(中高)		
					社会・地歴科指導法Ⅰ 社会・地歴科指導法Ⅱ 社会・地歴科指導法Ⅲ or Ⅳ		
	英語グローバル 学科 英語文化専攻	英語	60単位以上	20単位以上	※ 20単位以上	成績が累積GPA2.0以上かつTOEICの得点550点以上であること。	※MUSC留学エクステンションプログラムに参加する際に限り16単位とする。 ※編入生がMUSC留学エクステンションプログラムに参加する場合、「英語科指導法Ⅱ」が未修得でも他の条件を充足していれば、実習に行くことを許可する。
					教育実習事前指導(中高)		
					英語科指導法Ⅰ 英語科指導法Ⅱ 英語科指導法Ⅲ or Ⅳ		
健康・ スポーツ 科学科	スポーツ マネジメント学科	保健 体育	75単位以上	20単位以上	20単位以上		※は、備考欄に注意書きを記載。確認のこと
					教育実習事前指導(中高)		
					保健体育科指導法Ⅰ 保健体育科指導法Ⅱ 保健体育科指導法Ⅲ or Ⅳ		
生活 環境 学部	生活環境 学科	家庭	75単位以上	20単位以上	20単位以上		
					教育実習事前指導(中高)		
					家庭科指導法Ⅰ 家庭科指導法Ⅱ 家庭科指導法Ⅲ or Ⅳ		
社会 情報 学部	社会情報 学科	情報	75単位以上	20単位以上	※ 20単位以上		※「道徳教育指導論」の単位は含めない。
					教育実習事前指導(中高)		
					情報科指導法Ⅰ 情報科指導法Ⅱ		
音楽 学部	演奏学科 応用音楽学科	音楽	※ 80単位以上	20単位以上	20単位以上		※卒業必修科目及び選択必修科目の単位を充足し、かつ「教科に関する専門的事項の科目」の必修単位を充足していること。
					教育実習事前指導(中高)		
					音楽科指導法Ⅰ 音楽科指導法Ⅱ 音楽科指導法Ⅲ or Ⅳ		
薬 学部	健康生命 薬科学科	理科	75単位以上	20単位以上	20単位以上		「教育の基礎的理解に関する科目等・各教科の指導法」20単位以上の中には、「教育実習事前指導(中高)」1単位、「△△科指導法Ⅰ」「△△科指導法Ⅱ」各2単位および「△△科指導法Ⅲ」「△△科指導法Ⅳ」のどちらかの単位2単位を含むこと(計7単位)
					教育実習事前指導(中高)		
					理科指導法Ⅰ 理科指導法Ⅱ 理科指導法Ⅲ or Ⅳ		

R6(2024)年度入学生以降の
教育の基礎的理解に関する科目等・各教科の指導法 固定時間割

【1年】

学年	開講期	中高	栄教	科目名	単位	日	歴	英	健マネ	環	食	情	音	康
1	前期	必	必	教職入門	2	月5	月5	月4	月4	月4	月3	月3	月3	月3
1	前期	必	必	日本国憲法 注1	2	月1	月2	月2	月2	月2	水5	水5	水5	月2
1	後期	必	必	教育原理	2	月4	月4	土4	土4	土4	月4	月4	土4	土4
1	後期	必	必	教育心理学	2	土4	土4	土3	土3	土3	土4	土4	土3	土3
1	後期	必	必	教育行政学	2	土5	土5	月4	月4	月4	土5	土5	月4	月4

注1 「日本国憲法」の合併について

新健の学生は以下の通りとする。

月1	新健A・B
水5	新健C・D

【2年】

					日	歴	英	健マネ	環	食	情	音	康	
2	前期	必	必	教育課程総論	2	月4	月5	月5	月4	月5	月4	月4	月5	月5
2	前期	必	必	教育方法の理論と実践	1	月3	月4	月4	月3	月4	月3	月3	月4	月4
2	前期		—	発達心理学	2	土3	土3	土3	土3		土3	土3	土3	
2	前期	必	—	国語科指導法Ⅰ	2	土1								
2	前期	必	—	書道科指導法Ⅰ	2	土2								
2	前期	必	—	社会・地歴科指導法Ⅰ	2		土1							
2	前期	必	—	英語科指導法Ⅰ	2			集中						
2	前期	必	—	家庭科指導法Ⅰ	2				月3					
2	前期	必	—	情報科指導法Ⅰ	2						金5			
2	前期	必	—	音楽科指導法Ⅰ	2							土1		
2	前期	必	—	理科指導法Ⅰ	2								土1	
2	後期	必	—	生徒指導・進路指導	2	土3	土5	土5	土3	土5		土3	土5	土5
2	後期	—	必	生徒指導の理論と方法	2					月4				
2	後期	必	必	道徳教育指導論	2	月3	月4	月4	月3	月4	月3	月3	月4	月4
2	後期	必	必	ICT活用の理論と実践	1	月4	月3	月5	月5	月3	月5	月4	月3	月3
2	後期	必	—	国語科指導法Ⅱ	2	土1								
2	後期	必	—	書道科指導法Ⅱ	2	土2								
2	後期	必	—	社会・地歴科指導法Ⅱ	2		土1							
2	後期	必	—	英語科指導法Ⅱ	2			土2						
2	後期	必	—	家庭科指導法Ⅱ	2				集中					
2	後期	必	—	情報科指導法Ⅱ	2						金5			
2	後期	必	—	音楽科指導法Ⅱ	2							土1		
2	後期	必	—	理科指導法Ⅱ	2								土1	

注2 情は「教育実習Ⅱ(中高)」のみ

参考1 「教育実習Ⅰ(中高)」「教育実習Ⅱ(中高)」について
新健はR5(2023)年度入学生から3年次開講

参考2 健マネの「保健体育科指導法Ⅰ～Ⅳ」について
学科専門教育科目として新健と学部共通で開講

注意 新健は、学科の指示に従って
基礎・専門教育科目として開講されて
いるものを受講すること

【3年】

					日	歴	英	健マネ	環	食	情	音	康	
3	前期	必	必	教育相談の理論と方法	2	土4	土3	土3	土4	土3	土4	土4	土3	土3
3	前期	必	必	特別支援教育論	2	月5	月4	月4	月5	月4	月5	月5	月4	月4
3	前期	必	—	国語科指導法Ⅲ	2	土2								
3	前期	必	—	社会・地歴科指導法Ⅲ	2		土2							
3	前期	必	—	英語科指導法Ⅲ	2			土1						
3	前期	必	—	家庭科指導法Ⅲ	2				月5					
3	前期	必	—	音楽科指導法Ⅲ	2							土2		
3	前期	必	—	理科指導法Ⅲ	2								土2	
3	通年前期	—	必	栄養教育実習事前事後指導	通年1						土3			
3	後期	必	必	総合的な学習の時間と特別活動	2	月4	月3	月3	月4	月3	月4	月4	月3	月3
3	後期	必	—	教育実習事前指導(中高)	1	土4	月4	土4	土4	月4		土4	月4	土4
3	後期	必	—	国語科指導法Ⅳ	2	土2								
3	後期	必	—	社会・地歴科指導法Ⅳ	2		土2							
3	後期	必	—	英語科指導法Ⅳ	2			土1						
3	後期	必	—	家庭科指導法Ⅳ	2				土2					
3	後期	必	—	音楽科指導法Ⅳ	2							土2		
3	後期	必	—	理科指導法Ⅳ	2								土2	
3	通年後期	—	必	栄養教育実習事前事後指導	(通年1)						土3			

【4年】

					日	歴	英	健マネ	環	食	情	音	康	
4	前期		—	教育史	2	土3	土3	土3	土3	土3		土3	土3	土3
4	通年前期	必	—	教育実習事前事後指導(中高)	通年1	月6	月6	月6	月6	月6		月6	月6	月6
4	通年後期	必	—	教育実習事前事後指導(中高)	(通年1)	月6	月6	月6	月6	月6		月6	月6	月6
4	後期	必	—	教職実践演習(中高)	2	月5	月5	月5	月5	月5		月5	月5	月5
4	後期	—	必	教職実践演習(栄教)	2						月4			

【学外実習】

					日	歴	英	健マネ	環	食	情	音	康	
3	後期	—	必	栄養教育実習(学校現場)	1						学外実習			
4	前期	必	—	教育実習Ⅰ・Ⅱ(中高) 注2	各2	学外実習	学外実習	学外実習	学外実習	学外実習	学外実習	学外実習	学外実習	学外実習

中高教職課程の申込み

4月1日(月)～9月25日(水) 13時

令和6年度 教職課程履修の手引きを読み、中高教員免許取得希望者は次のとおり手続きしてください。

情報以外の免許教科は、中学校・高等学校両方の教職課程履修になります。

1年次前期開講の教育の基礎的理解に関する科目等、教科に関する専門的事項の科目(各学科の基礎・専門教育科目)、教職基礎科目の日本国憲法、共通教育科目は履修しておいてください。(『履修便覧』「免許・資格(全学部・全学科対象)」のページで確認のこと)

STEP 1

STEP 2 までに

学生証(M.I.C.)に履修費チャージ

(★下図参照) MUSES の申込
をすることで課程履修費が引き
落とされる

STEP 2

4/1～9/25 13時

MUSES での「資格履修申込」

Web から MUSES にアクセスして
資格履修申込を行う(次ページ参
照)

手続き完了

MUSES<Personal File>の
「資格履修・取得状況」に
「資格名称(略称)」が表示
されていれば手続き完了

★学生証(M.I.C.)に履修費チャージ方法

◆教職課程履修費



M.I.C. ATMで、学生証(M.I.C.)に
課程履修費をチャージ

M.I.C. ATM の設置場所・利用時間は

『Student Guide-For Academic Studies』参照

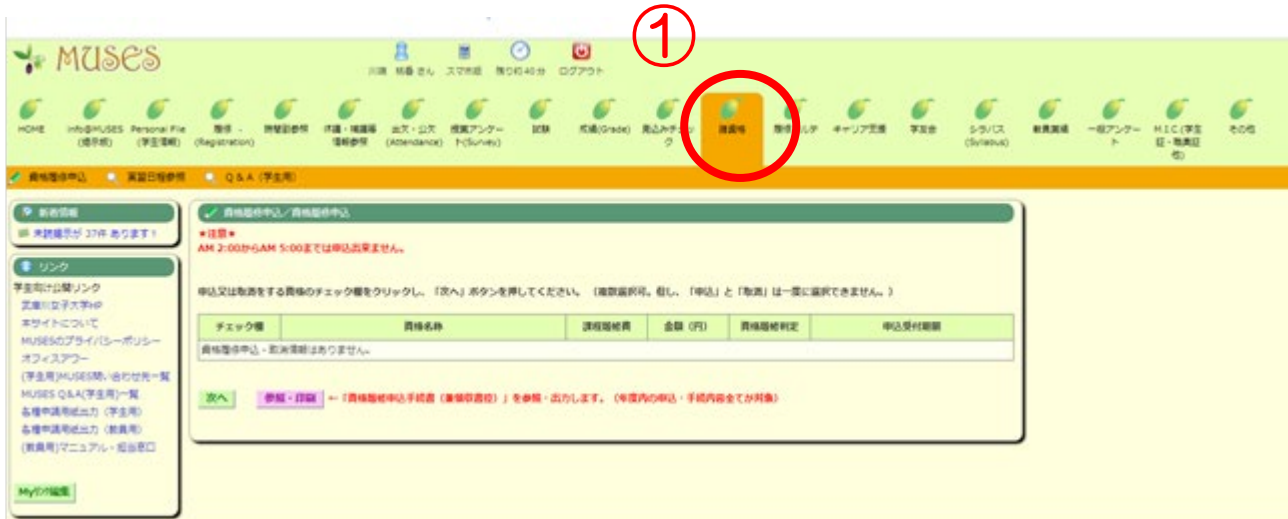
学科	教職課程履修(免許種類)	課程履修費
日本語日本文学科 (どちらか1つ選択)	中学(国語)・高校(国語)	40,000円
	中学(国語)・高校(国語・書道)	
歴史文化学科	中学(社会)・高校(地理歴史)	
英語グローバル学科 英語文化専攻	中学(英語)・高校(英語)	
健康・スポーツ科学科/ スポーツマネジメント学科	中学(保健体育)・高校(保健体育)	
生活環境学科	中学(家庭)・高校(家庭)	
社会情報学科	高校(情報)	24,000円
演奏学科/応用音楽学科	中学(音楽)・高校(音楽)	40,000円
健康生命薬科学科	中学(理科)・高校(理科)	

<注意>

- 手続き期間内に STEP2 の手続きをしない場合は、履修意志がないものとみなす
- STEP1 学生証(M.I.C.)に履修費チャージできていない場合は、STEP2 の手続きはできない
- 納入した課程履修費は、手続き期間後はいかなる理由であっても返金しない(手続き期間であれば、Web 上で申込を取り消すことは可能である)
- 課程履修費以外に、卒業時には免許状授与申請料が免許種別ごとに 3,300 円、介護等体験費(5日)(各社会福祉協議会が徴収する 10,000 円)が必要(2023 年度の実績)
- やむを得ない理由で期間内に手続きができない場合、必ず事前に学校教育センターに申し出ること

STEP 2 MUSES（教育支援システム）での「資格履修申込」方法

① MUSES（教育支援システム）にログイン→諸資格→資格履修申込 をクリック（下図参照）



② 申込したい資格のチェックBOXにチェックを入れる

資格履修申込・取消

★注意★
AM2:00からAM6:00までは申請できません。

申込又は取消をする資格のチェック欄をクリックし、「次へ」ボタンを押してください。（複数選択可。但し、「申込」と「取消」は一度に選択できません。）

チェック欄	資格名称	課程履修費	金額(円)	資格履修判定	申込受付期間
<input type="checkbox"/> 申込	教職中一種(国語)・高一種(国語)・高一種(書道)	あり	16,000	なし	2006/10/20 - 2006/11/12
<input type="checkbox"/> 申込	栄養教諭(大学)	あり	16,000	あり	2006/10/20 - 2006/11/12
<input type="checkbox"/> 取消	図書館司書教諭	あり	16,000	なし	2006/10/20 - 2006/11/12
判定中	資格A(資格履修判定中の資格)	あり	16,000	あり	終了
履修中	資格B(判定後合格または判定なし)	あり	16,000	なし	終了
辞退	資格C(履修確定後に辞退)	あり	16,000	なし	終了

次へ 印刷 ←今年度に申込・取消をされた資格があれば「資格履修申込手続書(兼領収書控)」を出力します。

資格履修申込・取消

③ 内容に間違いなければOK をクリック（M.I.C.から教職課程履修費が引き落とされます）

資格履修申込内容確認

次の資格について申込を受けてよろしいですか？

資格名称	課程履修費	金額(円)	資格履修
栄養教諭(大学)	あり	16,000	あ
図書館司書教諭	あり	16,000	な
資格E(課程履修費なし)	なし	0	な
課程履修費(計)		32,000	

◆M.I.C.残高確認(2006/10/19 10:00 現在) (単位:円)

費目	引落額	残高
		35,000
資格履修申込	32,000	3,000

キャンセル **OK**

資格履修申込内容確認

資格履修申込・取消完了確認

資格履修申込・取消を完了しました。資格履修申込手続書(兼領収書控)を印刷したい場合は、印刷ボタンを押してください。

◆申込者情報

ユーザID	学籍番号	所属学科	年	クラス	番	学生氏名	操作日時
xxxxxxxx	xxxxxxxx	六日	1	A	1	武藤川 花子	2006/10/19 10:00

◆受付内容

受付内容	資格名	課程履修費	金額(円)	資格履修判定
申込	栄養教諭(大学)	あり	16,000	あり

◆M.I.C.取引情報

取引番号	費目	引落額	迄金額	取引日時
T23456	課程履修費納入 [栄養教諭(大学)]	16,000		2006/10/19 10:00

◆諸注意

- 資格履修判定「あり」の資格を申込した場合、判定後、不合格に判して課程履修費を退金します。判定結果発表、及び退金の詳細については info@muses (掲示板) で個別に通知します。あらかじめ課程履修説明会で配布の資料などをよく読んで、判定の内容、発表日など確認しておきましょう。
- 申込内容の変更について
資格履修申込受付期間中は、申込内容の変更が可能です。期間外の変更は一切受付ません。
- 印刷した資格履修申込(取消)確認票は大切に保管し、記載内容がよく読んで確認しておきましょう。
- 履修確定した後は、いかなる事由であっても課程履修費の返還は行いません。

印刷 戻る

資格履修申込・取消完了確認

④ 印刷して本人控として保管

⑤ MUSES<Personal File>の「資格履修・取得状況」に「資格名称(略称)」が表示されていれば完了